

後援会通信 NO. 1

ご挨拶

湘南学園後援会 会長 富田 良男

お陰様を持ちまして、湘南学園後援会も発足から一年を無事に経過する事ができました。本年度は湘南学園理事会とPTA、同窓会の方々による「TEAM 湘南学園」が結成され、我々後援会も微力ながらお手伝いをさせていただき事ができました。50余名の会員による船出となった当後援会ですが、来年度の事業目標の要は会員拡大に尽きると言って過言ではありません。

今年PTAを卒業される方々には、湘南学園後援会への御入会をお待ち申し上げております。是非とも湘南学園の更なる発展の為に御力をお貸しいただける様お願い申し上げます。

後援会第一回総会のご報告

副会長 田辺 真理

平成22年4月17日(土)に第1回総会が開催されました。

冒頭、22年度湘南学園学園長にご就任された「仲本正夫学園長」にご挨拶を頂戴し、また来賓として「佐藤允同窓会会長」のご挨拶を頂戴いたしました。その後、以下議案の審議を行い満場一致にて全ての議案が承認可決されましたので、紙面にてご報告申し上げます。

- ・第1号議案 事業報告及び収支決算報告の承認を求める件
- ・第2号議案 細則案の承認を求める件
- ・第3号議案 役員選出の件
- ・第4号議案 事業計画案及び収支予算案の承認を求める件 以上



詳細に関しては湘南学園ホームページ内、「湘南学園後援会」をご覧頂ければ幸いです。

(<http://www.shogak.ac.jp>)

*写真は中本正夫学園長です

後援会活動のご紹介

<22年度 松ぼっくりフォーラムのご報告> レポート担当 新井 澄子

平成22年6月22日、チーム湘南学園の一員として、「松ぼっくりフォーラム」に参加しました。当日は雨模様の生憎のお天気でしたが、生徒、保護者、同窓生、近隣の方々、そして後援会の方々と沢山の方が、森ビル株式会社代表取締役社長 森 稔氏と元NHKエグゼクティブアナウンサー 鈴木 健二氏の対談、及び森氏の講演にお見えになりました。

森氏は、湘南学園時代の数々のエピソードや、お仕事の原点からご苦労されたこと、現在の世界的規模の事業のお話、そして特に生徒さんには夢を持つことの大切さをお話し下さいまし

た。なお、後援会は当日の会場設営から受付、案内等、懇親会までと松ぼっくりフォーラムに要した費用の一部を、私たちの出来る範囲で協力させていただきました。

<湘南学園留学生のお世話をさせていただきました> レポート担当 田辺 真理

平成22年年9月26日、オーストラリアノックス校の生徒とホームステイ先の学園生約30名を、後援会会員 野中さん一家のご協力、後援会としてヨットセーリング(江ノ島めぐり)にご招待させていただきました。当日はお天気も良く、海上は4~5メートルの風でうねりも無く、江の島のハーバーから出て稲村ヶ崎の沖あたりまで40分程のセーリングを楽しんで頂きました。



*右が森稔氏



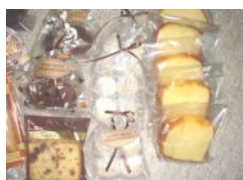
* 鈴木氏と森氏



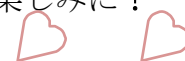
*佐藤同窓会長と森氏

・PTA バザー参加の報告・ レポート担当 林 美和

去る平成22年10月3日(日)は、10月にしては暖かな一日となり、お蔭さまでバザーは盛大に開催されました。初参加となった後援会の喫茶店は、皆様には余り馴染みのない、少しわかりにくい場所で開催でした。そこで、お客様が来て下さるか心配でしたが、おかげさまでとても盛況でした。出店した喫茶店の利益は28,740円でした。お手伝いしていただいた会員の皆様、どうもありがとうございました。平成23年も、10月にバザーは開催予定とのことです。会員の皆様も、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



写真は出展したお菓子の数々です。今年もお楽しみに！



🍷 Kokoro 赴くままに NO. 1 🍷



米作りにチャレンジ

近藤正隆



退職して、すでに5年が過ぎた。退職してから仕事や時間に追われることがなくなった。やらなければならないことがなくなったのだから好きなことをやってみようと思った。

湘南学園で長年にわたって教員ができたのは、係った生徒の関係が良かったからだろう。苦しかったこともあったが、その殆どを忘れてしまい、楽しかったことだけが思い出として残っている。教員生活は年を重ねるのに伴い神経を使うことが多くなり、思い出も少なくなった。

在職中、父から借地の家庭菜園を引き継いだ。野菜を作るために畑へ行くと、考え事から解放されて安らぎを感じた。野菜が獲れると楽しさは倍増した。種を蒔き、芽が出て、苗が大きくなり、花を咲かせて、実となる。一粒の種から沢山の実を着ける過程は教育に通ずると考えるとおもしろくもある。

借りていた土地で野菜を作っていたのが、家庭菜園として売り出されていた土地を購入することとなる。家庭菜園をしている知人もできるようになり、栽培の仕方や肥料の手配等の情報も入るようになる。そして、耕作する土地が広がり、いつの間にか200坪を超える広さとなっていた。

昨年、出入りの植木屋さんから田んぼをやってみないかと言われ、何も分からないまま引き受けてしまった。家庭菜園で知った大工さんに相談したところ、一緒にやってくれるとの返事を得たのが理由だった。

横浜で育った私は田んぼを見たことがあっても、作業をしている風景としてである。田んぼで米作りをするイロハさえ分かっていない。大工さんは新潟出身で、米作りをしたことがあるというので頼りにした。

10年近く米作りをしていない放棄地であった田んぼでは米を作れないと、いろいろな人から言われた。米の苗を手配することさえ覚束ない。代かきから始まる作業に農機具が欠かせないというのに、全く農機具を持っていないのだから、話にならないとも言われた。しかし、大工さんが苗の手配をしてくれ、その苗を植えてから4か月後には予想していなかった米が収穫できた。これはいろいろな人が協力してくれたからである。参加、協力してくれた人たちにはとても感謝している。

考えてみれば、湘南学園後援会は、昨年発足した。まだ始まったばかりで、何ができるのかは未知数である。後援会の活動が実をむすぶには、いろいろな人の協力が必要なのではないか。参加を呼びかけたい。

* 近藤正隆 先生プロフィール: 湘南学園に35年間勤務。学園長代行、中高校長を務められた。現後援会役員。